

はじめに



山形市長 佐藤 孝弘

山形市は、東と西に仰ぎ見る山々、馬見ヶ崎川をはじめとした河川の清らかな流れなど、豊かな自然に囲まれた市街地と田園が共存する美しいまちです。古くは、出羽の国、全盛期57万石の大名であった戦国武将・最上義光公の城下町、また、街道の交わる交通の要衝として栄え、日本海へとつながる最上川の水運を利用して京都へ運んだ特産品「紅花」と、鋳物、仏壇などに代表される伝統工芸が継承される商工業にも支えられながら、県都として発展してきました。

近年、全国的な人口減少・超高齢社会の到来や、地球規模での環境問題の深刻化、東日本大震災を契機とした防災意識の高まりなど、本市を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。また、市民の価値観やライフスタイルの多様化などにより、新たな課題やニーズに対応したまちづくりが求められています。

こうした時代の流れに対応するため、本市のまちづくりの基本的な方針を示す「山形市都市計画マスタープラン」を平成10年の策定以来、初めて改訂いたしました。

このたびの改訂では、中核市、さらには連携中枢都市として、隣接する自治体との連携による発展を意識しながら、雇用や交流を生み出す新たな受け皿づくりや交通ネットワークの強化、環境や防災に配慮したまちづくりなど、新たな視点を取り入れ、見直しを行いました。

この計画のもと、本市の歴史や文化を大切に継承しつつ、人口減少傾向に歯止めをかけ、将来にわたり活力ある地域社会を維持しながら、誰もが健康で安心して暮らし続けることができる活力と賑わいのある持続可能なまちを目指してまいります。

本プランを実現するためには、市民、NPO、事業者、そして行政が互いに連携し、協力しながらまちづくりに取り組むことが不可欠でありますので、皆様にはより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本プランの改訂にあたり、貴重なご意見とご提言をいただきました山形市都市計画審議会並びに研究会の委員の皆様をはじめ、市民ワーキングや各地区における意見交換会、パブリックコメント等にご協力いただきました多くの市民の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成29年3月